

第15期第1回理事会（新旧合同理事会を含む）

議 事 録

日 時 昭和43年7月9日 15.00～20.00

場 所 気象庁予報部会議室

出席者 青木、朝倉、有任、大井、大田、神山、岸保、北川、小平、須田（建）、竹内、中島、根本、孫野、毛利、山本、吉武（新理事）

磯野、北岡、桜庭、須田（滝）、畠山（旧理事）

報 告

前回の常任理事会議事録により新旧理事の引継事項を確認した。

議 題

1. 理事会の運営について

（欠席理事の意見はプリントされ配付された）

(1) 理事長の具備すべき要件

討論の結果次の各条件を具備した者がよいということになった。

- イ. 管理能力があること。
- ロ. 常任理事会に出席できること。
- ハ. 理事長をやる意欲のある人であること。
- ニ. 理事の過半数の支持を受けること。
- ホ. 以上の要件を具備すれば必ずしも東京付近に在住しなくてもよい。

2. 常任理事について

(1) 常任理事は全国の理事の中から選任されることになっている。とくに学会賞、藤原賞選銜の委員長については在京者に限らないこととし、その場合には事務を担当する常任理事をおく。

(2) 事務は複数理事担当制とするのがよい。

(3) 原則として希望者の中から常任理事をえらぶ方がよい。

議事進行の都合により、旧理事は退席し、新理事だけで次の議事を行なった。

3. 理事長の選任について

この度の理事会では選任方法について方針をたて、選任は次の機会にする考えであったが、議題の表現に明確を欠く点があって、その趣旨が徹底しなかった。しかし

(1) 新役員は6月1日に選挙されたまま1か月を経過したのに、理事の事務を引継がれていない。事務引継を

するまでは前任理事が事務を執行することになっているが實際上事務が停滞している。

(2) 地方在住の理事はごく最近、再び理事会出席のために東京へ出ること困難性がある。

(3) 今回の理事会には地方在住の理事が比較的多く出席されている。

(4) この機会を逃がすと近い時期にこのような多数の理事が出席できる理事会が開けるか保証できない。

したがって早く理事長を選任する必要がある。

(1) このことを議事録に記録し

(2) 欠席された理事にこの旨を通知し

(3) 理事長選任に関する今回の手づぎは前例にしない。

ことを条件とし

緊急議題として「理事長を選任すること」をとりあげることの可否を採決したところ

可とする者 13名で、賛成多数で議題とすることになった。

次に

選任の方法を

(1) 全国の理事の文書投票によるか

(2) この理事会で選任するか

を採決したところ

(2)に賛成する者13名で、この理事会で選任することになった。

次に

(1) 投票によるか

(2) 話し合いによるか

を討議し、採決した結果投票を行なう事になった。

投票結果はつぎの通りである。

山 本 義 一 氏 10票

小 倉 義 光 氏 6票

白 票 1票

以上により

山本義一氏が理事長に選任された。

4. 常任理事の選任と事務分担について

常任理事になることを希望している理事を常任理事と

することになった。

その事務分担については概ね希望通りとなったが多少話合によって変更された。

常任理事

山本, 朝倉, 有住, 大井, 大田, 神山, 岸保, 北川, 小平, 竹内, 根本, 松本, 毛利

事務分担

(1) 理事長代理は庶務を担当する

理事長代理 大田

(2) 事務別の担当理事次のとおり ○印をチーフとする

庶 務 ○大田, 毛利, 竹内

会 計 ○有住, 根本

気 象 集 誌 ○小平, 松本

天 気 ○朝倉, 有住

気 研 ノ ー ト ○根本, 神山, 大井, 竹内

講 演 企 画 ○岸保, 朝倉, 大井

外 国 関 係 ○毛利, 北川

国 際 交 流 ○北川

学 会 賞 岸保 (山元: 学会賞推薦委員長)

藤 原 賞 岸保 (藤原賞推薦委員長は別途定める)

地 物 研 連 神山, ○岸保, 松本

学術会議関係 ○神山

(普及講演会 根本)

5. 学術会議の学会推薦について

学会で3名推薦すると、全員当選が危ぶまれるという

意見が出たが、前回の理事会で3名推薦と決定しているので既定方針によることになった。

6. 前期理事からの引継事項の審議

(1) 昭和44年度の当番支部は関西支部とする。

春季か秋季かの選択は支部で決めて貰おう (注参照)
(2) 各誉会員推薦基準の原案作成を岸保理事に担当して貰おう。

(3) 米国の気象学会との joint meeting の件は当分保留する。

(4) 集誌などの page charge 徴収については小平理事に検討して貰おう。

7. 退任理事に記念品贈呈

前例にならい贈呈する

(注) 本件は議事録作成中に、昭和44年度の当番支部は九州支部となるのが従来の順番であることがわかり改めて九州支部の了解を得たので、九州支部と決った。

以上

報 告

1. 発明協会より依頼された昭和43年地方発明表彰受賞候補者として、測器課より穂田巖、中島正一、伊達一俊、三瀬二郎各氏を推薦してきたので、これの事務手続をとった。(発明考案の名称、可燃性ガス容器の自然発火の防止装置)

2. 松永受賞候補者として、学会賞推薦委員会より推薦された、駒林誠氏の書類を提出した。(研究題目 降雨降雪の機構に関する研究)

気 象 集 誌

第 II 輯 第 46 卷 第 1 号 1968 年 2 月

飯 田 睦治郎: 運動量, 顕熱および潜熱の赤道を越える (南北方向への) 輸送について.....	1— 13
武 田 喬 男: 過冷却雲内の降水粒子 第1部—氷晶との衝突による過冷却水滴の凍結.....	14— 28
光 田 寧: 超音波風速計による接地気層内における運動量輸送の直接測定.....	29— 35
高 倉 直: 温室内気温の予測について (II)	36— 44
R. F. MAC KIMNON: 上層風の水爆実験による気圧波への影響	45— 59
菊地 勝弘・葛西 俊之: NIMBUS II APT 写真のステレオ解析.....	60— 67